

友だち関係も内向性、正常児がリーダーがとれるようになったが、発展はなかった。

三学期、Aグループ。作品は立体的に大きくちみつに作り、中に何人も入って遊べる物（ゆめのあるもの）を作り、持続時間も三〜五日も長時間になり交わりもだれとでも深く交われ、特に内向性児は多くの友だちを上手にリードできるようにになった。Bグループ。ぎやぐに課題をいやがり、課題以外の物を貧弱に作り、持続時間も短く交わりも浅く貧弱でバラバラになって一学期とまったくぎやぐになってしまった。

考察 私の研究では指導したAグループの方が良い結果がでたが、いつでも指導した方が良いというのではないと思う。それは、①私は入園当初から指導したので指導になれたことと、②指導も課題をあたえたり構成に対する暗示や部署分担をきめ作品をほめたりと、あまり多く指導しなかったので強い抵抗を感じなかったのだと思うし、③見のがせない事は、幼児は指導にらくにのってくる時期があること。入園当初は指導にうまくなつてこないが、二学期中頃から指導にのり、集団でこみ入った作品ができたり、友だち関係もゆづり合い協力し合えるようになってくる。この時期を逃さず適した指導をすると、作品も持続時間も友だち関係もすべて良くなるのだと思う。またBグループのように幼児にまかせっぱなしではすべてぶちこわれ、創造活動などできなくなってしまう。このように積木遊びでは一つの目標に向かって多くの幼児が劣等感を持たずに、協力して遊べるという他の活動にも見られない良い活動ができる。特に社会性のない幼児に正しい社会性を身につけさせるために、積木はなくてはならないものだと思う。この大切な積木遊びを正しく見つめ、より良い社会性をのばす場として用いたいと思う。

## ごっこ遊びについての一考察

東京・西桜幼稚園 鈴木正子

日常おこなわれているままごとあそびについて、子どもたちは家の人の役割をどのように認識し、どんなきまりで遊んでいるかを観察記録して、日常の保育に役立てたいと考えた。

ままごとあそびの母親の仕事进行分析してみたが、次の点を強調したいように思う。

① 家族愛 母が子をいたわるのみでなく子どもが母や老人をいたわる心を養っていききたい。② 家族の人に何か仕事をしてもらった時、自然と感謝の気持をあらわすようにしてやりたい。③ 子どもはの養育は、形だけ母親をまねた事が多いが、よい子どもにしたいという母親の願いをつたえていききたい。それで次のような方法を考えてみた。④ 環境をかえる。⑤ ままごとあそびの中の話題をとり話し合う。⑥ 役割の交替 立場をかえていろいろの役をする。⑦ 話、人形芝居をする。⑧ その役のしるしを用意する。

### ○母親の仕事进行分析

- ①料理、配膳、給仕、配分、食器の清潔、整頓（ごはん、菓子をつくる、食卓にならへる、食器を洗つてしまう）
- ②住宅の清潔手入れ（そうじ）
- ③家庭内の備品、家具の移動、整理、整頓（ままごとあそびの体裁を整える諸設備）
- ④被服の製作、洗濯、つくろい
- ⑤家族の健康管理（保健衛生、安全、身体の清潔）
- ⑥子どもの養護教育（叱る、本をよんでやる、赤ちゃんの世話）
- ⑦金銭に関する仕事（買物、配分、必要に応ずる）
- ⑧交際（ことはつかい、礼儀作法）
- ⑨家族愛（おみやげ）
- ⑩家の人に対する感謝の言動（ありがとう）
- ⑪生活管理（母が主になって、生活のきりもりをする）

以上のうち④と⑤は、私の叔のままごとあそびにみられなかった。